

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	0373000710		
法人名	社会福祉法人 寿生会		
事業所名	グループホーム たのはた虹の家		
所在地	岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑120-18 (電話) 0194-37-1125		
評価機関名	(財) 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本通三丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成20年2月5日	評価確定日	3月6日

【情報提供票より】(20年1月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤	人, 常勤換算 8.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要(1月7日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	- 名
要介護5	- 名	要支援2	- 名
年齢	平均 84.1 歳	最低 69 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田野畑村診療所
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設がまとまってある立地の良さと、医療体制に恵まれた環境の中で利用者は心穏やかに生活を営むことができ、職員は安定した介護をしている様子がうかがわれる。馴染みの関係が適度に築かれている安心感が利用者の笑顔になっているのが印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を活かし、具体化した改善シートを作成し、積極的に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を見直し、改善に活かしている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在までの運営推進会議の内容としては、施設側の報告で終わっている。今後は、推進会議委員も地区の色々な方を巻き込むなど、より地域に根ざした事業所となるよう活発な意見交換を行い、サービスの向上につなげていきたいと意欲的であったので、これからの充実した運営推進会議に期待していきたい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付は窓口も設置し、意見や苦情を報告書にまとめ検討して反映させるよう取り組んでいる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホーム独自の広報紙を発行するなど地域の一員として理解を広め、地域との交流を一層深める取り組みを行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を職員はもとより、広報、家庭通信等で地域や家族に発信し、地域との関わりとともに創りあげる努力をしている。更にキーワードとして健康・清潔・安心を明示し、理念をより具体化させている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議で確認しあっている。職員一人ひとり、その理念を常に心に思い、意識しながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、地域の行事等には参加している。しかし、最近地域のあり方が変化し参加することが難しくなっている実情にある。	○	グループホームの広報を発行するなど地域の一員としての理解を広め、さらなる交流が必要と思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善シートを作成し、評価を活かした取り組みをしているところである。また家族との関係については、食事は以前より行っているが、もう一歩踏み込んで一泊旅行等の実現にも向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	毎回施設からの報告だけで終わっている。向上のための方策を考え取り組んでいるが、サービス向上に活かす工夫が必要な状況である。	○	地域や市町村との交流の場となれるようメンバーを工夫し、研修会や昼食会を取り入れたり魅力ある会議になるよう企画の工夫も必要と思われる。また、これをサービスの向上につなげていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>連携は取れている。立地的に同じ敷地内にあり、常に情報の交換がある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に本人の写真や近況を載せた「家族通信」を家族のもとに送付、金銭管理報告も同時に行っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族アンケートでも今のところ運営に反映させる意見等はないが、これからも続けていき、意見・苦情などあれば反映させていく考えである。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員異動は、1カ月の内示期間があり、その間に馴染みの関係をつくるなど、利用者へのダメージはないよう配慮されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の研修計画により確保されている。研修を受けた職員は講師となり報告をしている。資格試験には全面的にバックアップをしている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会に加入しており、相互訪問計画や、ネットワークづくりに向け準備中である。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの申込みがあると、利用前に2回程度、家庭訪問を実施している。しかし、現状としては施設からの入所利用がほとんどで馴染みの関係がつくられてはいるが、納得した上でのサービスの利用に心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として学ぶことが多い。常に理念を踏まえ、ぬくもりと、やすらぎをもった日常生活を支えあって営んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録、日誌は職員全員で共有し、アプローチ(関わり)を丁寧にし、一人ひとりが思いを伝えられる雰囲気づくりを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員間では記録や日誌に基づき、意見を出し合って作成されているが、本人を取巻く関係者との話し合いや意見の反映は十分といえない。	○	センター方式採用(努力目標)なども視野に検討している。利用者本人を取り巻く様々な人々の意見の反映等が充実していくことに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に評価をしているが、変化がない場合が現在は多く、継続となっている方が殆どである。家族関係が稀薄なため、なかなか良い関係が保てなく家族の意見がない。家族へは手紙で現状を知らせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域抱括支援センターとは情報交換している。役場職員1名が運営推進委員のメンバーとなっている。近所の方に協力をお願いして、散歩の時に声掛けをしてもらっている。近所の地主さんから無償で土地を借りて畑を作って、収穫の喜びを共有している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への支援は十分できている。日夜問わず診療が受けられるようになっており、受診状況記録は流れが分かるように整理されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携が出来ている。ターミナルケアの勉強会もしており、特別養護老人ホームや医療との連携も十分できているが、最大限の対応が出来るようにしたいという共通の思いがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	耳の不自由な人の誇りやプライバシーを守るため耳元で話をするようにしているなど、利用者の行動や状況により対応している。記録や個人情報は適切に管理している。必要に応じて使用する時には家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝風呂、朝寝坊も可能であり、希望に沿った支援を心がけているためか利用者の表情も明るい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備中も食事中も職員と会話が弾み、収穫した食材で料理したものを楽しく食べ、手際良く職員と一緒に片付けをしている、とてもほほえましい雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯、順番とも利用者同士で決めている。異性介助は了解を得ている。バイタルチェックは朝に実施したものを基準としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野を活かした役割分担を利用者間で決めている。生活歴を活かすようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出が一番の気分転換であり、職員と買物や散歩をしている。法人の敷地内の散歩は、自由にしてもらえるよう対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜9時以降は施錠するが、日中は付き添い、見守り支援をしている。近所の住民や商店とも連絡を取り合っ、事故のないよう取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、災害を想定した訓練をしている。地域の協力体制が出来ていて、地域防災協力隊との研修会を実施している。備品準備を早急にと、考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に法人の栄養士がチェックしている。特に、糖尿病の利用者には、カロリー計算をして摂取調整をしている。水分摂取記録をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小あがりは、あまり活用されていないものの、それぞれ居心地良い定位置を見つけて寛(クツロ)いでいる。トイレが1カ所で混み合う時間帯があり、隣接施設を借用して対応している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物や家族の写真を飾り、それぞれの個性ある居心地良い居室になっている。		